





審査結果報告書

2021年 1月 8日

主査 氏名 村雲芳樹 

副査 氏名 隈元唯介 

副査 氏名 井上優介 

副査 氏名 小林清典 

1. 申請者氏名 : 渡辺 真郁

2. 論文テーマ : Transpapillary Biliary Cannulation is Difficult in Cases with Large Oral Protrusion of the Duodenal Papilla (十二指腸乳頭形態の新分類と胆管挿管困難との関連性の検討— 口側隆起の大きな十二指腸乳頭は胆管挿管困難である —)

3. 論文審査結果 :

ERCP 検査を行うに当たり、胆管挿管困難例が一定数存在し、ERCP 後膵炎のリスク因子になっている。本研究は、十二指腸乳頭の形態の新分類を考案し、その分類により胆管挿管困難例がどのような症例か理解を深め、実臨床にフィードバックすることを目的とした後ろ向き観察研究である。審査会では以下の点について討論を行った。

- ・過去に報告されている分類と比較して有用性はどうか。
- ・2つの分類をしているが、それを合わせて分類した場合はどうか。
- ・一般的な医療現場で使いやすい分類かどうか。
- ・患者の状況による影響は考慮したかどうか。
- ・ERCP による合併症の発生率については検討したか。
- ・修練医と指導医のどちらが施行するか、決定方法はどのようになっているか。
- ・本研究の結果を実臨床につなげているかどうか。

本研究結果により胆管挿管困難例の特徴が明らかになり、今後、そのような特徴を有する症例については指導医が施行する等の対策を講ずることが可能となると考えられ、患者にとって大変有用な情報を提供する研究と考えられる。よって、博士の学位にふさわしい研究との結論に至った。